



日本生物工学会の発展に向けた 代議員アンケートを受けて

産学連携委員会

生物工学会は設立100周年を迎えようとしています。次の100年に向けて学会ではどのような活動を進めていくべきかという将来構想を練るにあたり、産学連携委員会では2018年秋に代議員の皆様アンケートを実施しました。皆様から多数の貴重なご意見をいただき、今後の運営に関する課題がみえてきましたので、ここに報告致します(次ページ以降)。

アンケート結果は産・学・官に分けて集計し(図参照)、傾向を比較しました。この結果、産と学・官の代議員の間には、さまざまな点で意識の相違が見受けられました。たとえば、学・官が学会を主に研究発表の場と捉えているのに対し、産(企業)は学会に情報収集や研究者とのネットワーキングの機会を期待しており、この観点から現状に必ずしも満足していないという結果が得られました。また、重要視する学会活動にも産と学・官で違いがみられ、興味の対象が異なることが窺えました。具体的には、学・官が学会誌、支部活動を重視するのに対し、産は産学連携委員会が企画するシンポジウムを重視しています。得られた結果は今後、学会を企業会員にとってより魅力的に運営していくうえで参考となる知見と言えます。

この他に明らかになった点は、産学官問わず会員がもっとも重要視している学会活動は年次大会であり、年次大会が日頃の研究成果の発表の場、情報発信・収集の場、ネットワーキングの場として重要視されている現実が窺えました。年次大会をより充実させることは、今後の重要課題と言えます。改善点として発表のあり方をあげる声も多く、もっと議論を深める必要があるのではという意見が多数寄せられました。このほか、企業の参加、異業種交流、中高生向けの企画を求める声もありました。

本学会の特徴として産学の距離の近さがあげられたのに対し、産学連携は未だ不十分で、もっと注力すべきという意見も多くみられました。産学連携に期待することは、学・官では共同研究や技術移転が圧倒的に多かったのに対し、産では共同研究と交流が同レベルでした。産学官いずれも技術移転が不足していると回答し、国内の研究成果が産業利用されていない現状が垣間見えます。

今後学会に期待することは、現状の若手活躍の場を維持すること、産学官が協力して革新的な技術開発ができること、伝統的な発酵技術と最先端の技術の両方を大事にしていくこと、異分野融合による領域の拡大などがあげられました。

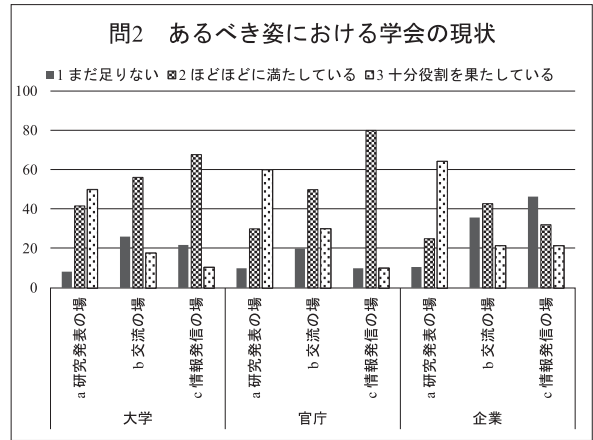
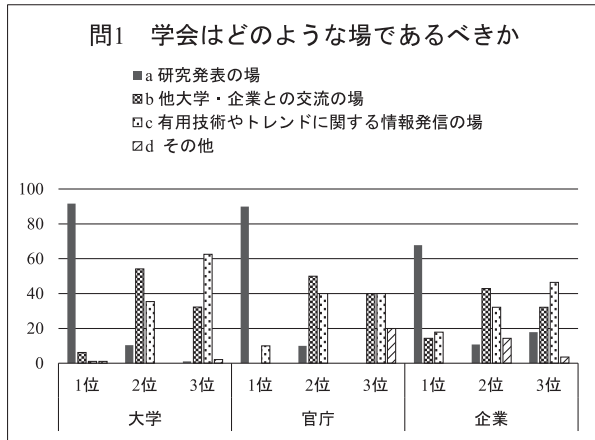
代議員アンケートの結果を受けて、さらに理事の意見を募ったところ、産学の認識の違いを鑑み、バランスの取れた学会運営が必要であり、特に年次大会において産業界からの企画をもっと増やすのがよいのではという意見がありました。産(企業)が主体的に企画し、実学に近づけるための協力体制を築くというものです。これらの意見を、今後の産学連携委員会の活動に役立て、会員満足度の向上に努めて参ります。

生物工学会産学連携：将来構想委員会アンケート集計結果

実施期間：2018年10月3日～10月19日

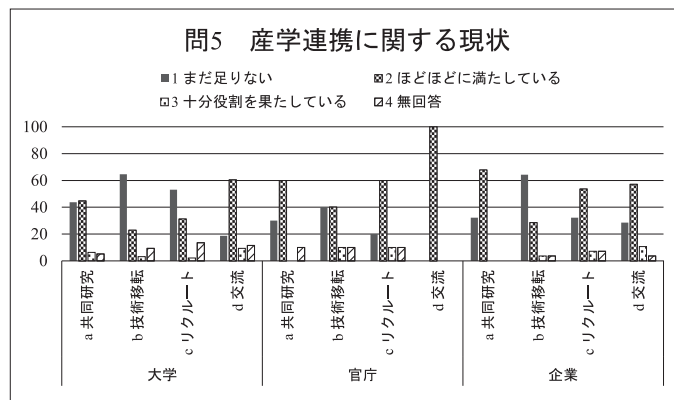
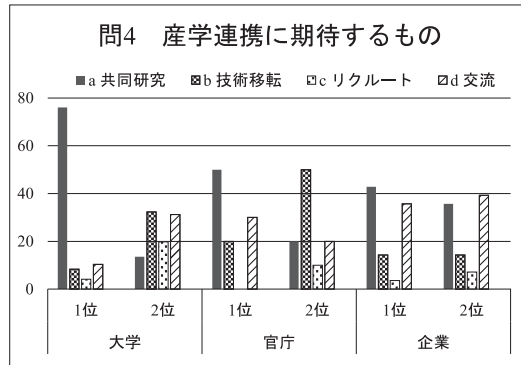
回答数：大学96名，官庁10名，企業28名，合計134名（回答率89%）

集計結果：



問3 現在の学会活動のうち、特に重要視している活動を3つまで選んでください。

	大学 % (順位)	官庁 % (順位)	企業 % (順位)	改善点
年次大会	100 (1)	100 (1)	100 (1)	年次大会：口頭発表で深い議論ができていない。ポスター発表でよい。 企画一般：数が多すぎる。研究部会をもっと活用してはどうか。
学会誌（和文誌・英文誌）	73 (2)	70 (2)	43 (4)	
支部活動	70 (3)	60 (3)	54 (3)	
産学連携委員会企画シンポジウム	10 (6)	20 (4)	57 (2)	
SBJシンポジウム	13 (5)	20 (4)	25 (5)	
研究部会	18 (4)	10 (6)	4 (6)	



問6 日本生物工学会に期待すること	
大学	・若手に活性があり自由な雰囲気があるので、これを維持して欲しい。産業界との距離に近い学会なので、これを維持。
	・産学交流の推進は、現在やや不足している。産学が協力し、更なるイノベーション創出を。大会時に賛助企業のブースがあると良い。
	・中小企業にとっての学会の役割も考えることも重要。
	・産学連携、異分野融合等のカラーを強くし、本学会の独自性、存在意義を明確にする必要がある。
	・大学は最先端、独創的な研究の場、企業は実利研究開発を優先する場、その溝を埋めるのが学会。
	・関係諸官庁との連携強化。国プロなどへの研究申請。
	・伝統的な発酵工学を復興させる活動を。発酵工学の研究者・技術者の育成。（企業の）培養技術の伝承。
	・バイオ医薬品や再生医療分野への貢献。最先端技術・関連用語の解説がほしい。異種分野との積極的な融合。
	・地方を巻き込んだ交流、異業種交流。高校生向けの広報活動。若手研究者のサポート。
	・もっとグローバル化するべき。国際的研究交流・産学連携のアジア地域での中心となること。
官庁	・産官学が一体となって、基礎研究から産業応用へ、革新的な技術へ。大学・研究所シーズと企業ニーズのマッチング。
企業	・伝統と革新を併せ持つ強みを活かしてさらに活性化する。伝統を守るための知見を蓄積。実生産での問題への関心を。
	・学・官の技術・成果が産の求めるところとマッチすること。技術移転ができる学会へ、「学」から「産」へ。実学重視。
	・革新を呼び込む刺激的なシンポジウムの企画。時流に先じた企画を。研究部会の情報をより開示し、企業からの参加を増やし、産学連携による共同研究の芽を育てることができないか。他機関と協力した技術者教育（リカレント教育等）。

以下の問は、官学のみ回答

問7 研究テーマを選ぶ際に下記項目について重要視するものを3つまで選んでください。	大学 (%)	官庁 (%)
a とにかく学生に論文を書かせられる研究	44	10
b 資金が取れる研究	56	20
c (国内の) 基礎研究レベルの向上	60	30
d 国内産業への応用	53	20
e 国内外を問わず、社会への貢献	68	40

問8 産業界のニーズに興味はありますか。あてはまるものを選んでください。	大学 (%)	官庁 (%)
a 興味あり。共同研究を通してよく把握している。	29	0
b 興味あり。セミナー等を通して、一般的なニーズを把握している。	40	10
c 興味はあるが、よく把握できていない。	29	30
d 興味はない。	0	0

問9 研究資金に関して、あてはまるものを選択してください。	大学 (%)	官庁 (%)
a 公費の配分には、満足している	0	10
b 競争的資金は公平に配分されている	13	0
c どちらともいえない	56	30
d その他	24	

以上